

	企業名	セブン・イレブン	ローソン	ファミリーマート	サークルKサンクス	ミニストップ	am / pm	デイリーヤマザキ
食品廃棄物の発生状況		1店舗1日当たりの発生量 (kg / 日)						
	生ごみ	14.7	15.2	15.9	15.8	16.2	18.5	13.5
	生ごみのうち 廃食用油					(5.0)		
	廃棄物全体	74.1	52.2	62.0	67.0	60.0	57.7	36.9
	データの根拠	環境報告書2005 (東京都内1,163店舗の2004年の平均値 (生ごみのみ23区内 844店舗の平均値))	環境報告書2006 (広島市内6店舗に おける2005年度の毎 日実測の平均値)	環境報告書2006	環境報告書2005 (直営店24店舗の7 日間の平均実測値)	環境報告書2006 (都内約100店舗の 計量平均値)	環境報告書2006 (2005年6月の直営 店調査に基づく試算 値)	企業からの聞き取り結果 (エリア代表41店舗の年間 (2005)平均値)
発生抑制等の情報	発生抑制の 取組情報	・デイリー商品の鮮 度のチェック回数を1 日3回から9回に増 加させ、前倒して売り 場から除いていた商 品の販売ロス削減 ・売り場から除いた 商品(消費期限まで 時間あり)の試食品 としての有効利用	・商品の製造段階に おいて「生産加工管 理システム」を導入し た工程管理の改善に よるロス削減 ・店舗でコンピュー ターを利用し、曜日、 天候、地域行事等を 考慮した商品発注に よるロス削減	(具体的な取組の記 載なし)	(具体的な取組の記 載なし)	(具体的な取組の記 載なし)	(具体的な取組の記 載なし)	・惣菜パン、お弁当などの 食材を共有化させ、食材 アイテム、製造ロスを削減 ・食材を小ロット化し使い 切りによるロスの削減 ・「厨房専用携帯端末」を 導入したシステム化による 製造工程の管理を通じた 廃棄物発生抑制
	リサイクルの 取組情報	・販売期限切れ商品 等の堆肥化リサイク ル実施 ・産官学連携の食品 残さ飼料化実験の実 施	・一部エリアで実施し ていた店舗の廃食用 油リサイクルを全国 に拡大予定 ・首都圏店舗におい て生ごみ処理機を実 験導入	・販売期限切れ商品 等を肥料化・飼料化 する「生ごみ回収リ サイクルシステム」、 ならびに廃食用油を 飼料化する「廃食用 油リサイクルシステ ム」の導入拡大	・飼料業者、処理業 者と共同で食品残さ を加えた配合飼料に よる肥育等試験の実 施 ・JA、農家、処理業 者等の協力を受け、 食品残さからできた 堆肥で栽培したタマ ネギを弁当食材とし て利用	・食品廃棄物を養豚 用飼料として利用を 開始 ・廃食用油を石けん 用等に100%リサイク ル	・都内23区内では 個々の店舗の廃棄 物を一括して処理す る「am/pmリサイク ルシステム」を稼働 ・販売期限切れ商品 などの生ごみの堆肥 化を開始	・フライヤーの廃食用油の リサイクルシステムの導入 拡大

(注) ファミリーマート、デイリーヤマザキの数値は、年間排出量で公表されているものを1日当たりに換算している。